

# Desert Wind

Vol. 32, July 2009

## ■ 未来への蓄え ■ (1ペテロ 4:7-18)

聖書が教える歴史観は、螺旋(らせん)のようにぐるぐる回っていくという東洋的な概念ではなく、始まりと終わりのある一本線上を、終末に向かって直線的に進むという概念です。つまり、すべての人に誕生と死があるように、歴史にも始まりと終わりがある。それが聖書の教えです。ただ聖書が教える世界の歴史の終わりは、生き物が少しずつ弱り、やがて息を引き取るというようなプロセスではなく、神が「今だ」と思われた時に、突然やって来るというものです。

ペテロは、「万物の終わりが近づいた」と言っています。地球の温暖化、オゾン層の破壊、石油や天然ガスなどのエネルギー資源の枯渇、また、さまざまな面で環境破壊が進み、今や地球は死に瀕しているという言葉の時どき聞かれますが、聖書が私たちに語る「終わりの時」というのは、そういう意味での地球の終わりではなく、すべての物に始まりを与えられた神が、すべての物に終わりをもたらされるということです。神は、ご計画に従って世界を始め、また、ご計画に従って、世界を終わらせられるのです。そこでペテロは、万物の終わりを迎える私たちの生き方について三つの勧めを書いています。

### 心を整え、身を慎んで祈る

まずペテロは、万物の終わりが近づいたので、祈りのために心を整え、身を慎むようにと勧めています。つまり終わりの時代に備えるために大事なことは、「祈る」ということです。祈りは、神様と私たちをつなぐ唯一のパイプです。祈りは霊的な呼吸です。呼吸をしなければ死んでしまうのと同じで、祈りのない信仰生活は、命のない、死んだ信仰生活になってしまいます。宗教改革者の一人、カルヴァンは、『祈りの失敗は信仰生活の失敗』であると言いましたが、クリスチャンは祈りを通してこそ全能の神の力を体験し、霊の戦いに勝利し、主の御心を成し遂げることができるのです。

### 互いに熱心に愛し合う

次に万物の終わりに備える生き方として、「愛し合う」ということが挙げられています。祈りが神様に対するものであるなら、愛は人に対するものです。この愛について、まず「互いに熱心に愛し合いなさい」と勧められています。聖書が教える「互いに」という人間関係の概念を「相互服従」と言いますが、それは、一方が他方を愛するのではなく、お互いが愛し合うという関係、あるいは、自立した者同士の愛の関係ということです。ペテロは、互いに熱心に愛し合うこと理由を、愛は多くの罪を覆うからであると言っていますが、人は互に愛し合うことにより相手の罪と破れを覆うことができ、相手を救うことにつながります。それは私たちが、主イエス・キリストにおいて、あらゆる罪を赦された者だからです。そして、教会に集う者が、一人も欠けることなく、再臨の主を迎えることができるようになるのです。

### 神の恵みの良き管理者として生きる

万物の終わりに備える生き方として三番目に挙げられることは、「神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を生かして互いに仕え合う」ということです。やがて私たちの人生も終わりを迎えます。この事實は、私たちが今持っているものは本当の意味で私たちの所有ではないということを示しています。能力にせよ、何にせよ、私たちは人生の途上で色んなものを手放しながら生きていきます。そして、やがてすべてを手放す時がやってくるのです。もともと私たちは何も持っていないで、ですから、すべては神様から与えられたものです。だからこそ「賜物」と言われているのです。特に神様から与えられた「聖霊の賜物」の良き管理者として、それをいい、上手に管理して、神様の栄光を表わすことが終わりの時代に備える私たちの生き方です。1タラントを土の中に隠しておいた僕は、『悪い怠惰な僕よ』と言われて、神様の恵みの場所から外に追い出されてしまいました。これは、厳粛なことです。皆さんは如何ですか。この終わりのときの備えが出来ておられますか？

LVJCC 牧師: 鶴田健次

## DREAMS COME TRUE

- ✠ 教会堂の建設
- ✠ 敬老ホームの設立
- ✠ 幼稚園の設立

### お祈りのリクエスト

日本の家族の救いのために

スモールグループのオイス伝導のために

入門者クラスのために

エミ姉、華子姉

英語部の働きのために

小さな子供を持つお母さん方のクラスのために

(香織姉担当)

聖書通読マラソンのために

倉田一徳さんの脳腫瘍の癒しのために

神崎先生の目の癒しのために

新井雅之兄の脳内出血の後遺症のリハビリと癌治療のために

道子 Gill 姉の癒し

.....

Desert Wind では 1400 字程度のお証、また質問を募集しています。ご意見・質問等何でもどうぞ。

lvjccnews@hotmail.com  
編集: 真子ガーディーナ  
松岡みどり

## — イスラエルの歴史 ① —

### ・ 聖書の民

旧約聖書を開くと、そこには古代イスラエル民族の歴史が記されています。現代イスラエル国家を建てたユダヤ人たちは、この旧約聖書の物語が自らの民族の歴史であると考えています。旧約聖書は 39 巻からなりませんが、その中には、天地創造、人類の墮落、イスラエルの族長物語、モーセ、ヨシュア、ダビデ、ソロモンなどの物語や、ヨブ記や伝道者の書のように、信仰の内面に迫ったもの、また歴史の中に翻弄されていくイスラエルの民や苦悩する預言者の姿など、実に多くの物語が含まれています。

### ・ 神のアブラハムに対する約束

聖書におけるユダヤ民族を理解する鍵となるのは「神とイスラエル民族の約束」です。この「約束」は現在のユダヤ、キリスト、イスラム教の基本であり、今も世界を動かしています。聖書によると、ユダヤ民族の起源は、紀元前 20 世紀に遡ります。ユダヤ人の父祖アブラハムは、ユーフラテス川のほとりで遊牧を営むヘブライ人の族長でしたが、神の命令に従いカナンの地に移住しました。創世記には、神がアブラハムにその一人息子イサクを犠牲にせよと命じる物語が記されています。この時にアブラハムが示した忠実のゆえに、神はアブラハムとその子孫に祝福を与えると約束されました。アブラハムの息子はイサク、その息子はヤコブです。ヤコブの 12 人の息子たちから、イスラエルの 12 部族が生まれました。聖書にはこのヤコブが、天使と格闘したのち「イスラエル」という名をもらうという物語があり、イスラエルという名前がユダヤ民族の名称となりました。またユダヤ人という名称は 12 部族の中のユダ族から由来しています。

### ・ ユダヤ民族の形成

最初是一个家族だったイスラエルが民族となるのは、紀元前 13 世紀の出エジプトの事件以降です。飢饉のためエジプトに移住した後、エジプトで奴隷となっていたイスラエルの民は、モーセによってエジプトを脱出します。彼らはシナイ半島を 40 年間も放浪した後、神が約束したカナンの地に向かってきますが、カナンに向かう途中、モーセはシナイ山で神から十戒を授けられます。この出エジプト記や創世記を含む、旧約聖書の最初の 5 つの書は、モーセ五書と言われ、ユダヤ教の戒律となり、中でも十戒はユダヤ教の教義の中

核となっています。十戒に書かれている「あなたはわたしのほかに何者をも神としてはならない」や「刻んだ像を造ってはならない」という神の定めは、当時多神教や偶像礼拝が一般的だった古代世界では、とても特異な事柄でした。

### ・ 最初のイスラエル国家(第一神殿時代)

紀元前 11 世紀頃、カナンの地に定着したイスラエルの民は、イスラエル王国を建国します。イスラエル王国は、第 2 代のダビデ王、続くソロモン王の時代に最盛期を迎え、ソロモン王はエルサレムに壮麗な神殿(第一神殿)を築きました。この神殿は十戒の石版を収めた契約の箱を安置した場所であり、民族の信仰の中心でした。

ソロモン王の死後、王国は北のイスラエル王国(10 部族)と南のユダ王国(2 部族)に分裂します。そして紀元前 722 年にイスラエル王国はアッシリアに滅ぼされてしまいました。この時にアッシリアに連行された人々の行方は不明で、「失われた 10 族」と呼ばれます。これ以後、イスラエルは実質的にユダ王国となり、現在の「ユダヤ人」という呼び方が生まれました。

滅亡を免れたユダ王国も、紀元前 586 年にバビロンのネブカデネザル王によって滅ぼされてしまいます。そしてエルサレムの神殿は破壊され、住民はバビロンに連れて行かれました。これを「バビロン捕囚」と言います。

### ・ 第二神殿時代

紀元前 538 年、ユダヤ人たちは帰国を許され、エズラやネヘミヤらの指導者によりエルサレムを再建し、かつて破壊された神殿も再建されました。これを「第二神殿」と言います。そして指導者たちは、神から与えられた十戒などの律法(トーラー)を守ることによって民族の間で失われてきた信仰を復活させようしました。その後のユダヤ人は、ペルシャ、エジプトやシリアの支配を受けながらも、律法に基づく生活を守り、サンヘドリンと呼ばれる宗教・司法上の最高機関の設置が許可されるなど、基本的な自治権をもって生活していました。

紀元前 2 世紀には、マカベヤ家が起こした反乱によりユダヤ人たちは独立を回復しましたが、ローマ軍により滅ぼされてしまいます。新約聖書に記されたイエス・キリストは、この時代に現れました。紀元 66 年、ユダヤ人たちはローマ軍に対する激しい反乱を起こしましたが失敗。70 年にはエルサレム神殿が破壊されます。これ以後、ユダヤ人はイスラエルの地を追放され離散(ディアスポラ)の歴史が始まります。(続く)



### 編集室 便り

ハレルヤ、真っ青な空に浮かぶ白い雲。昼間の気温も 10.0F を超え、夏らしい日が続いています。皆さん、夏期休暇や里帰りなど旅行に行かれる方も多いのではないのでしょうか? 旅の安全が守られるように、お祈りします。今月号は、お証のコーナーに変わり、イスラエルの歴史と題して、聖書の原点となる情報をお届けしています。キリスト教の知識が浅い方からクリスチャン人生が長い方も、聖書の実と真理を正しく知り、まだキリストを知らない方々に伝える事は大切な事ですね。お証のコーナーでは、引き続きイエス様との交わりや祈りが叶えられたこと、神をどのようにして知った過程などの体験談を寄稿して頂ける方を募集しています。今月も聖霊の力によって、皆様の伝道生活が推し進まれるようお祈りします。

